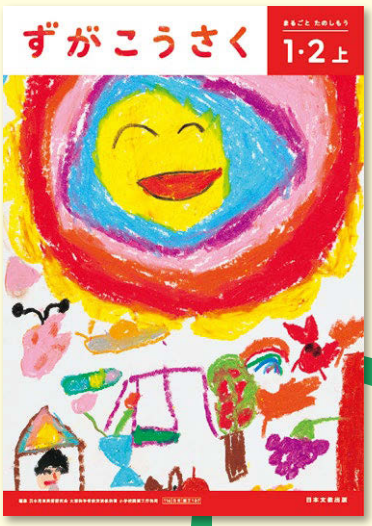
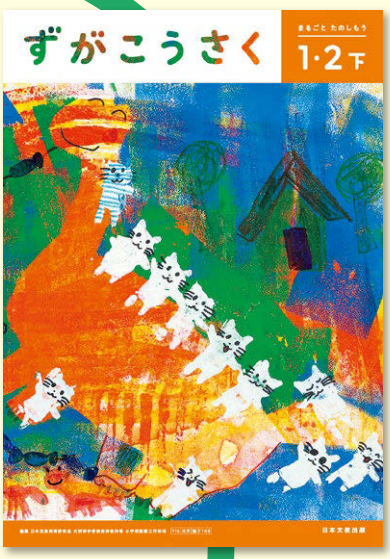
フォルム NO.330 Since 1956
日文教育資料［図画工作・美術］

形 forme

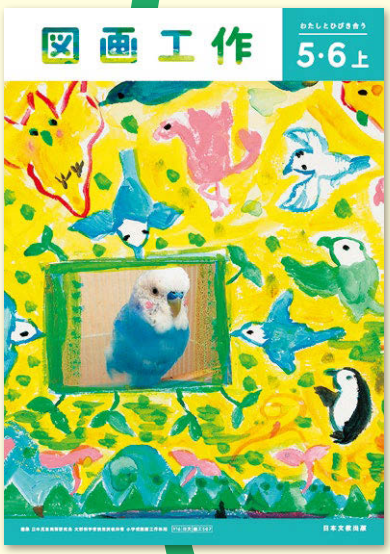


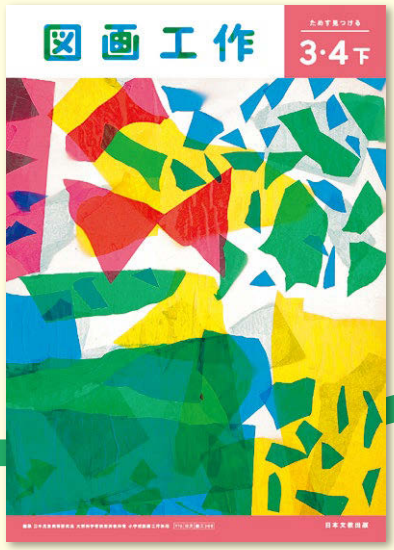


特集

「学び」をつなげる

図画工作の新しい教科書





本資料は、一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則り、配布を許可されているものです。

日文の新版教科書情報
詳しくはWebへ!
日文 検索

未来をになう子どもたちへ
日本文教出版

※本冊子掲載二次元コードのリンク先コンテンツは予告なく変更または削除する場合があります。

令和６年（2024年）度版　小学校図画工作科
内容解説資料として扱われます。

はじめに

『形 forme』は広く現代社会の要求に応える
美術教育の理論と実践の紹介を目的として
1956 年に創刊されました。
以来 60 年を超える長きにわたって、
美術教育に寄り添って刊行を続けています。
『形 forme』という書名は
造形と人間形成をシンボライズしたものです。
子どもたちのための美術教育に取り組んでおられる先生方、
美術や造形にかかわるすべての方々、そして保護者の皆様のために、
これからも、よりよい美術教育を目指す
道標となる内容を目指していきます。

Index No.330

② 特集 「学び」をつなげる
図画工作の新しい教科書
・巻頭メッセージ
・使ってみよう新しい教科書
・著者からのメッセージ

⑬ ABC PICK UP
阿部宏行

⑭ 新版教科書
「材料と用具のひきだし」扉ページのヒミツ

⑯ 使ってみよう アート・カード

⑱ まず見る
｜第33回｜ 感覚をみる 成相 肇

⑳ 花咲く未来を願って

表紙について

子どもが本来備えている成長する力。多少の悪天候でもめげず、健やかに育っていける土壌をより豊かにするための教育の一助となる教科書づくりを目指しました。一人ひとりの子どもの花咲く未来を願っています。

アートディレクション：清水 一（東京ピンポン）
編集・ディレクション：山本武義（東京ピンポン）
デ ザ イ ン：東京ピンポン

ページ下部に、それぞれのコーナーと校種の関連性の強さを表示しています。各企画は小・中・高全ての校種に関連がありますが、特に関連の強い校種を大きくしています。

例：｜小｜中｜高｜ 特に小学校に関連の強いコーナーを表します。

特集

「学び」をつなげる

図画工作の新しい教科書

子どもはみんな、
社会の希望であり、未来です。

それは、翻って、
子どもたちが希望をもてる社会そして未来を
大人が真剣に考える責任があるということです。

私たちは教科書会社として、子どもの未来に
真剣に向き合いたいと考えます。

人生は予期しない困難が起こります。それでも、
自ら動き、失敗から学び、他者とつながり、
多様な考え方を柔軟に受け止めていくことで、
一歩踏み出し、人生をつくりあげていけます。

**図画工作には、人生をつくりあげるための
学びがたくさん詰まっています。**

その学びを支える新しい教科書ができました。

新しい図画工作の教科書の特徴や編集上のくふうなど、
内容解説資料で詳しく解説しています。
日文Webサイト「令和6年度 小学校教科書のご案内」をぜひご覧ください。
※ご案内ページは2024年3月31日まで開設予定です。

使ってみよう 新しい教科書 準備編

図画工作の授業にお悩みの先生。ぜひ教科書を見てみてください。

授業づくりのヒントがたくさん載っていますよ。

多様な他者と協働する力

日文の教科書では、実際の授業を取材・撮影した写真であることを大切にしています。
それは、子どもの表情やつぶやき、作品を通して、考え方が多様であること、
それを認め合う実際の姿を伝えたいからです。

つくりだす喜びを味わうことが、自己肯定感と他者理解の往還を生み出すことにつながるということではないでしょうか。
（『形』327号 p.5 より引用）

1

来月は
「おもしろだんボールボックス」か。
やったことないんだよな……。

採用3年目。
図工の授業づくりに
苦手意識あり。

2

そういえば、こういうときは
教科書をよく見るといいって
先輩の先生が言ってたな。

5分でわかる
教科書解説動画

3

うちの子どもたちは、
使えるものをつくるのが好きだから、
取り組みやすそうだな。

題材ごとの目標や指導の手立て、準備、場の設定など実践に即したポイントをまとめた教師用指導書「指導解説編」「朱書編」もご活用ください。

4

1 題材が決まったら、まずは授業計画

楽しいだけじゃなくて、授業を通して
育てたい力を第一に考えるんだな。

- 知識及び技能 ― 知識 / 技能
- 思考力、判断力、表現力等 ― 発想や構想 / 鑑賞
- 学びに向かう力、人間性等

授業計画で大切なのは、その題材を通して、
子どもにどのような力を育てるか、目標をしっかり立てることです。
教科書では3観点5項目に細分化してより明確に丁寧に「学習のめあて」を示し、
表現の題材は鑑賞活動と適宜関連して学習できるようにしています。
めあての5項目は、そのまま評価規準につながります。

3・4下 p.34-35「おもしろだんボールボックス」

※こちらの二次元コードより、2023年9月16日まで教科書QRコンテンツをご覧いただけます。

2 次に、準備

段ボールは
家庭にも声をかけつつ、
給食室や校区のスーパーにも
相談してみようかな。

用具アイコンや作例から、その題材で準備するものが分かります。保護者の協力が必要そうであれば、事前に学級だよりなどで伝えるとよいでしょう。

授業で使用する用具や材料で事前に作例をつくり、安全面で考慮するところや子どもがつまずきやすいところを予測しておけるとよいですね。

段ボールカッターや
カッターナイフの使い方は、
活動前にみんなで
おさらいしようかな。

3 授業の前に確認

◆手立てや発問のイメージトレーニング

教科書には活動中の子どもの様子や作品が
たくさん掲載されています。
写真を見ながら声かけをイメージしてみるのもよいでしょう。

斜めに切ったところが
面白いね。

段ボール片も仕切りに
利用しているんだね。

◆安全指導

すべての題材ページに二次元コードがあります。
用具の扱い方やつくり方の動画を確認し、授業のどの場面で子どもに見せるかを検討しておくとよいでしょう。

おもしろだんボールボックス
- P.34 つくって みよう（どう画）
- P.34 ざいりょう用具の使い方（どう画）
- P.34 友だちの作品を見てみよう（かんれんなど）

だんボールカッター　きりかた

教科書編集こぼれ話

北は北海道から南は沖縄県まで、のべ500を超える小学校を取材しました。
地域や学校の状況、児童の実態に合わせて選べるよう豊富な題材を掲載しています。

使ってみよう
新しい教科書
授業編

導入で

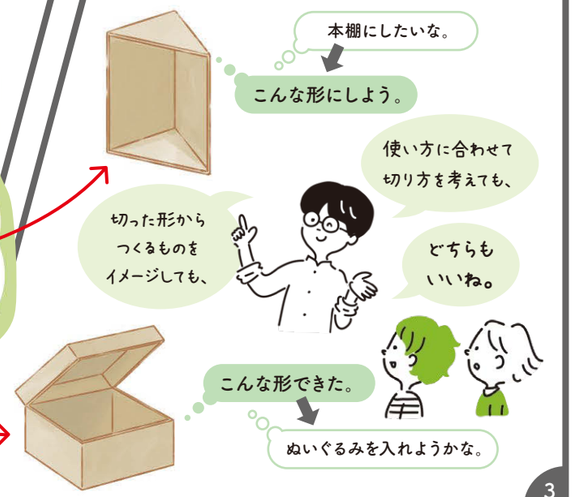
題材名横の写真は、その活動で大切にしたいことをイメージしたものです。「段ボールの形を生かしつつ、切り方をくふうして、使いたくなるような、面白いボックスをつくるんだな」ということを子どもたちと共有できます。

題材名や活動の概要、学習のめあては、黒板に掲示したりモニターに映したりして、導入時に子どもと活動内容を共有するツールとして使うこともできます。

1

切り方の例示として教科書紙面を活用してもいいでしょう。

2



3

4

鑑賞のヒントは、教科書の作例を見てから、表現に向かうときの投げかけになります。

教科書の作品を見ながら考えてもいいよ。

箱の、どの使い方がおもしろいかな。

鑑賞 ⇨ 表現

5

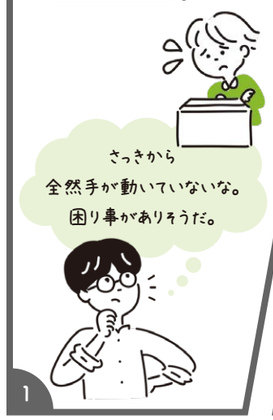
自ら考える力
決める力
やり抜く力

日文の教科書では、活動中の写真を大切にしています。
それは、材料や用具と出会う、思いを広げる、試行錯誤などプロセスの重要性を伝えたいからです。

『形』328号の巻頭インタビューは為末大さん

失敗も一つのプロセス、「よくあること」と思ってそこから学び、成功に結び付いた経験が、しなやかさにつながっていくんだと思います。
（『形』328 号 p.5 より引用）

活動中



1

2

題材ごとに、発想を広げる方法など子どもの活動を促すヒントとなる投げかけが示されています。

3

題材ページの二次元コードには、活動内容に合わせた用具の使い方や作品集「みんなの図工ギャラリー」などが収められています。児童のタブレット端末でも閲覧できます。

「QRコンテンツを見るときは、段ボールカッターなどの用具は机に置く」など約束事を決めて、児童が必要なときに閲覧できるようにしておくことも大切です。

「みんなの図工ギャラリー」を見て、発想や構想のヒントに。

4

箱の、どの使い方がおもしろいかな。

表現 ⇨ 鑑賞

鑑賞のヒントは、活動中に友だちの表現を見たり、でき上がった作品を見るときの投げかけにもなります。

5

教科書編集こぼれ話

一つの題材について、複数の学校で導入～振り返りの時間を通して取材しました。
実際の先生の投げかけや子どものつぶやきを拾い集めて教科書に生かしています。

使ってみよう
新しい教科書
活動の後で

題材の振り返り

1

教科書には、活動の後で、子どもにとってどんな気付きや学びがあったのかを振り返るための投げかけが示されています。

ふりかえり

使うことを考えながらどんなくふうができたかな。

段ボールの板を重ねて、じょうぶにつくったから、いつまでも使いたいな。

私と妹の好きな色を組み合わせた本棚だから、家でいっしょに使うんだ。

2

学びの積み重ね

題材は、活動のねらいや発想のきっかけ、使用する材料や用具などを考慮して、発達の段階に応じて学びを深めることができるよう、系統的に配列されています。

1・2上　1・2下　3・4上　3・4下　5・6上　5・6下

生活を豊かにするものづくり

3年生で空き容器を「へんしん」させたことを思い出したよ。

アップサイクル

- 工 たいせつボックス（p.36）
- 工 空きようきのへんしん（p.18-19）
- 工 おもしろだんボールボックス（p.34-35）
- 工 きって楽しいきっと使える（p.38-39）
- 工 紙から生まれるすてきな明かり（p.52-53）
- 工 使って楽しい焼き物（p.28-29）
- 工 1まいの板から（p.32-33）

段ボールの扱い

- 造 だんボールに入ってみると!?（p.42-43）
- 造 クミクミックス（p.40-41）
- 工 顔を出したらなんだかワクワク（p.43）

1年生でつくった「たいせつ ボックス」も妹といっしょにまだ使っているよ。

これまでも、いろんなアイデアで空き箱や空き容器を、素敵につくりかえてきたよね。

工 工作に表す活動
造 造形遊びをする活動

この図は題材系統表の一部を示したものです。

よりよい未来を創造する力

日文の教科書では、生活や社会とのつながりを意識するページを大切にしています。それは、学びは授業で終わるものではなく、人生や社会を豊かにするために生かされることを伝えたいからです。

『形』329号の巻頭インタビューは牧野篤先生

地域の人と関わって自尊感情が高くなってくると、やっぱり子どもは変わっていくんですね。（『形』329 号 p.4 より引用）

生活や社会とのつながり

特設ページを活用すると、さらに学びが深まります。

「おもしろだんボールボックス」と連続させてSDGsに関する特設ページを設けています。ゴミとして扱われるものを、アイデアー つで作品や商品としてよみがえらせている社会の活動を知ることで、授業での学びが生活で生きて働く力になることを実感できます。

広がる図工「すてられそうなものがよみがえる」（3・4下 p.32-33）

「おもしろだんボールボックス」（3・4下 p.34-35）

図工の授業でみんなが身に付けた力は、実は、社会の中でも生かされていくんだよ。

家でも何かつくってみようかな。

教科書編集こぼれ話

令和2年度版の教科書の取材で出会った子どもと再会することがあります。
「図工大好き」と言ってくれていた1年生の子が、
高学年になってものびのび図工を楽しんでいる様子を見て、とてもうれしくなりました。

日文の図画工作の教科書は、全国の小学校の子どもたちと
100人を超える著者・実践協力者の先生の協力のもと制作しています。
ここでは、4人の先生に代表していただき、新しい教科書に込めた思いを伺いました。

著者からのメッセージ

どんな こと すき だった？

1・2上 p.2-3「どんな こと すき だった？」

幼児期との接続ページ

丁子かおる先生
（和歌山大学　准教授）

小学校に入って新しいことを学ぶとき、子どもたちは不安でいっぱい。そんな中、絵をかくことや、つくることは子どもたちが経験したことのある、自信をもって取り組める楽しい活動です。だから、図画工作はとても大切な教科です。これまで経験したことを先生が聞いてくれると、子どもたちはきっと安心して「こんなことしたよ」「こんなことできるよ」って言ってくれると思います。

各分野のスタート題材を通して少しずつ学級・学校に慣れていってほしいです。「すごいね」「素敵だね」「こんなことできるんだね」「面白い形ができたね」と、子どもたちがしたことを通して子どもをたくさんほめてあげてください。それが、図画工作以外でも子どもたちがもっと学びたいという意欲につながっていきます。

まるごと たのしもう

1・2上
1・2下

山田芳明先生
（鳴門教育大学　教授）

「まるごと」には、つくることやかくことと見ること、つまり表現や鑑賞全部、という意味があります。でもそれだけじゃなくて、手や目、耳や鼻などといった、体全体の感覚という意味での「まるごと」もあります。また、子どもたちにとって表現や鑑賞の対象は、自分のこと、友だちのこと、生活の中で出会ったすべてのことや想像したこと、つまり身の回りにあるもの全部だと思うんです。そういう意味の「まるごと」でもあるんです。

体全部を使って、身の回りの全部を学びの対象としながら、表すことも見ることも全部ひっくるめて楽しんでほしい。それが子どもたちの成長にとってとても重要なことだと思います。

ためす 見つける

3・4上
3・4下

西尾正寛先生
（畿央大学　教授）

3・4年生の子どもたちは、体も成長し、できること、したいことがどんどん増えていきます。でもそのすべてが自分の思い通りにできるわけじゃない。経験は積んでいるんだけど、全部の経験を生かせるほどの積み方ではまだないんですね。それでもしたいことに向けて果敢に挑んでいく。壁にぶち当たることがあれば、ああでもないこうでもないと、まさに試行しながら思いを実現しようとしている。それが中学年の創造的な姿だと思います。

この時期にしたたくさんの失敗と、そこから発見したたくさんの「こうすればうまくいく！」ことの積み重ねが、「失敗をおそれない」気持ちを育みます。「ためす　見つける」は子どもたちの姿であり、子どもの背中を押す言葉なのです。

わたしと ひびき合う

西村徳行先生
（東京学芸大学　准教授）

5・6上
5・6下

高学年になると、表現に苦手意識をもつ子どももでてきます。でも自分では苦手だと思っていても、周りから見ると素敵な表現をしていることって結構あります。そういう子の表現や感じ方、考え方に触れて「すごい」と感じることもあります。身の回りや作品を見て「なんかいいな」と思ったり、自分がかいたものに「これいいかも」と感じたりする瞬間はどんな子どもにもあると思うんです。

そういうちょっとした心の動きが共鳴―響き合い―の始まりで、それを増幅させていくのが図画工作の学びではないでしょうか。その一つひとつが、その後の人生を歩んでいくときの勇気を与えてくれると思うんです。小学校最後の2年間で、そうした自分の心と響き合う人やものにたくさん出会ってほしいですね。

撮影：［丁子先生］山本顕史　［山田先生、西尾先生］川瀬一絵　［西村先生］池ノ谷侑花（ゆかい）

ABC PICK UP

4コマ漫画で、子どもや図工のことを学べるABCシリーズ。
ここでは、同シリーズから毎号のテーマに合わせた内容を
選んでご紹介します。

今回は「題材のABC」p.44をピックアップ！

子どもの表情から「思い」を読み解く先生のまなざし

評価のときに重視すべきことは、作品の芸術性でしょうか。そう考えると教師に必要なのは、審美眼などと言われる芸術家がもつような作品を見極める力かもしれません。しかし、子どもの作品を芸術作品と捉えてはいけません。子どもの作品は、一人ひとりの子どもの成長の証なのです。

図画工作の教科書には、造形活動している子どもの写真が掲載されています。そこから子どもの喜びや、深く考えている姿などを読み取ることができます。教育活動が繰り広げられている教室という営みのある空間で、子どもの実感を捉えることができるのは先生です。

先生のまなざしは、普段から子どもの表情やしぐさに注がれることで、体調や気分まで見取ることができます――それが学級経営の基本です。資質・能力が全過程を通して発揮されることを忘れず、子どものつぶやきやしぐさ、そして表情を捉えることを心がけましょう。そこに子どもの「思い」があります。

※このコーナーは、ABCシリーズからピックアップしたページを基に、再編集して掲載しています。

ABCシリーズのラインナップ

ABCシリーズは公式Webサイトで全編をお読みいただけます。
また、冊子をお送りすることもできます。

著者紹介
阿部宏行（あべ ひろゆき）

1954年生まれ。元北海道教育大学教授。中央教育審議会 初等中等教育分科会教育課程部会 幼児教育部会委員、同芸術ワーキンググループ委員（平成29年）、文部科学省「学習指導要領等の改善に係る検討に必要な専門的作業等協力者主査（小学校図画工作）」（平成29年）などを歴任。

小・中・高を通して「図画工作・美術」の教科書をつくっているのは、日文だけ。これからも「図画工作・美術」を応援します。

小学校図画工作科教科書

中学校美術科教科書

高等学校芸術科美術教科書

新版
教科書

「材料と用具のひきだし」扉ページのヒミツ

材料や用具の形や色、質感、それに触れる手元の様子が、
子どもたちを豊かな世界に導きます。
二次元コードからアクセスできる、見るだけでワクワクする動画、
図画工作について考える動画で
図画工作の学びがもっと深まります。

右の二次元コードから、
QRコンテンツを
ご覧いただけます。

1・2上

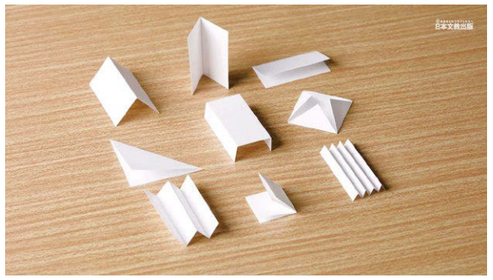
ざいりょうを ならべたら

1・2上は、美術家の山添joseph勇さんによる「ざいりょうを ならべたら」。身近な材料や用具を並べることから生まれるイメージの世界です。

1・2下

かみ いろいろ

メイキング映像は
こちら！▶



1・2下では、白い紙がさまざまな表情を見せる「かみいろいろ」の動画が登場。グラフィックデザイナーの岡崎智弘さんによるコマ撮りアニメです。紙という身近な材料の面白さが伝わってきます。

中・高学年

中・高学年には、ものづくりにさまざまな形で関わる人たちからのメッセージ動画を用意しました。
材料や用具に触れて表現する図画工作科の学びにはどんな意味や価値があるのか、
子どもたちと考えていくことができます。

登場する人たち

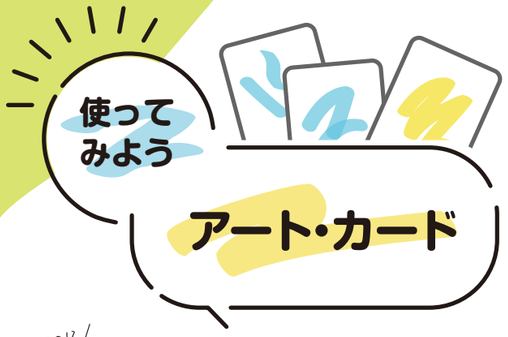
3・4上
「絵のぐがつくるたくさんの色」
Boojil（ブージル）さん
（アーティスト・絵本作家）

3・4下
「自ぜんの中のざいりょう」
熊野 亘さん（プロダクトデザイナー）
上原かなえさん（クラフト作家）

5・6上
「空想を形にするために」
山中俊治さん
（デザイナー・東京大学教授）

5・6下
「自分の好きなように
自分を表現する」
山下完和さん
（やまなみ工房施設長）

※扉ページの動画は、二次元コードより、2023年9月16日までご覧いただけます。



教師用指導書同梱の「アート・カード」は、
鑑賞だけでなく、気持ちをほぐして対話を促したり、
人と人をつないだりするにも、うってつけのツールです。
ここでは、アート・カードの魅力をお伝えします。
ぜひご活用ください。

存在は知りつつ、
いつ、どう使えばよいか分からず、
指導書の箱の中で眠ったままになっていませんか。
それだともったいない!

アート・カードってどんなもの？

美術作品などが印刷されたアート・カード。美術作品について作者や制作年を知るためではなく、
美術作品に親しむためのツールで、美術館所蔵作品で構成されたものや、世界の名画を集めたものなどもあります。
日本文教出版では教科書会社として初めて、平成23年度版の教師用指導書から同梱し、
多くの学校でご活用いただいています。

アナログでも

令和2年度版
教師用指導書同梱
アート・カード

△言葉カード 10枚

△作品カード 40枚×3セット　△素材カード 10枚×3セット

各作品の解説、アート・カードゲームの紹介、授業案などを
掲載した冊子も同梱しています。

デジタルでも

新版教科書では
アプリもご活用いただけます！

新版教科書では、「アート・カードを楽しもう」のQRコンテンツとして、アート・カードを手軽に楽しめるアプリを提供しています。カードを人数分用意できないときや、タブレット端末を使った家庭学習の際にもご活用いただけます。

※上記の二次元コードより、アート・カードアプリを2023年9月16日までご覧いただけます。
※アート・カードアプリに収録されている作品は、教師用指導書同梱のアート・カードの作品とは異なります。

1・2上 p.66「アート・カードを たのしもう～まねっこゲーム～」

いつ、どんなふうに使うの？

今の教科書では5・6上（p.16-17）に
「カードを使って」という題材がありますが、
「低学年から利用したい」という現場の先生方の声を受け、
新版教科書では1・2上から5・6下すべての巻末に
「アート・カードを楽しもう」というページを設けました。

このほか、教師用指導書同梱の冊子「アート・カード解説」でゲームを紹介しています。
具体的には、以下のような場面で活用してみてはいかがでしょうか。

年度当初のオリエンテーションで

自己紹介代わりに、好きなカードを1枚選んでお話しするのはどうでしょう。子どもの発達に合わせて「どこが気に入ったのか」「どんな感じがしたのか」などを話すとよいでしょう。

朝活で

朝の会の時間を使って、簡単にアート・カードゲームに取り組むことができます。アート・カードゲームを通して対話することで、子どもたちのその日の様子も見取ることができますね。

異学年交流や地域との交流で

「まねっこゲーム」など体を使うゲームは、言語に頼りすぎず、年齢や国籍を問わない、打ち解けやすい雰囲気をつくりだす活動です。縦割り班の交流などでもアート・カードは有効です。

もちろん、図工の授業でも

新版教科書では、いつでも何度でも取り組めるようにアート・カードゲームを各学年巻末で紹介しています。もちろん、年間指導計画に組み込むことも可能です。1時間でも活動できるので、気軽に取り組めます。教師用指導書同梱アート・カードの場合、上下巻合わせると作品カードは合計6セットになるので、班に1セットずつ渡すこともできます。

■評価は？

教師用指導書「指導解説編」では、「アート・カードを楽しもう」の指導案も掲載しますので、それを参考にしながら授業を行っていただけます。また、「アート・カード解説」でも指導と評価の勘どころを解説していますので、ご活用ください。

大切にしたいことって？

「正解かどうか」ではなく「どこから（どうして）そう思ったのか」。
作品の学術的解釈や多数の意見と異なっていたとしても、その理由を聞いて「ほんとだね」「確かにそうだね」と、
子ども一人ひとりの見方や感じ方を互いに認め合えるようにしましょう。
そうすることで、自己肯定感が育ち、違いを楽しめる関係をつくりだすことができるようになります。
低学年だと言葉で説明するのが難しい子どももいますので、
無理に説明を求めすぎないようにすることも大切です。

まず見る

誰もが知っている作品や、初めて出会うもの。
いつもの見方はいったん忘れて、一緒に新しい見方を試してみましょう。
それまで見えなかった作品の一面が、見えてくるかもしれません。

第33回

感覚をみる

パレード［展示風景］2017

ポンピドゥー・センター蔵［フランス］
毛利悠子（もうりゆうこ）［神奈川県・1980〜］
© Centre Pompidou-Metz / Photo Jacqueline Trichard / 2017 / Exposition Japanorama

ある刺激を感覚器官が受け取り、信号が神経を伝って脳に届き、そこで感覚が生じるとともに、命令が出され、信号が神経を通って筋肉などに伝わり、反応が起こる――そのように運動の仕組みを学んだ私たちは、往々にして、感覚とは運動に先立つものだと理解しています。しかしそれは一面的な理解だ、と解剖学者の三木成夫は指摘します。

> 感覚が原因で、運動が結果だという考え方は間違いです。その証拠に「犬も歩けば棒にあたる」というのがあるでしょう。動いたから新しい感覚が起こるということもあるわけです。（中略）「感覚あるところに運動あり、運動あるところに感覚あり」。どちらがあと先ということはいえない。感覚と運動はたがいに聯関（れんかん）する、というのが正しい言い方です。（中略）封書の重さを測る時に手を上下させますね。これも同じ理屈ですよ……。筋肉の収縮によって、重さの感覚が出てくる。（三木成夫著『内臓とこころ』河出書房新社、2013年、pp.83-84）

感覚と運動は相互に関わり合い、ときには運動の方が感覚に先立つ。三木が例示する重さの感覚以外にも、球技で言うところの「ボール感覚」とか、自転車に乗る感覚とかも想起されるでしょう。他にも例えば手話を見ていると、まさしく感覚と運動の相互交通を目の当たりにするかのようです。

さて、刺激と運動のシステムを備える装置という観点で言えば、生物と無機物の区別はありません。物質と感覚（心）の話にまで大風呂敷を広げるわけにはいきませんが、毛利悠子の作品は、いかにも三木成夫の話を連想させます。

アコーディオンが屈伸し、風船が呼吸し、毛バタキが戯れる。ブォッブォーッ、クワォーン、ジルリリリ…… *。様々な刺激を導入し、それに反応する運動を収集し、一連の現象を制御し再現する毛利の作品に、生物的な「脈」を見て取らない人はいないはずです。それらが生命体のように感じられるのは、そこに感覚と運動の「聯関（れんかん）」が認められるからでしょう。決して擬人化されているわけではないにもかかわらず、運動に伴って、新たな感覚が物質の中心に生じ（感覚をつくりだし）、歌ったり踊ったりしているように思える。物体の反応の様子は、そこに人が知覚し得ない刺激が存在することさえほのめかします。だからこそ、主に見ることを想定した美術の空間にあって、毛利の作品はひときわ自由に感じられます。この作品の前では、何なら目をつむってもいい。そして、踊ったっていい。パレードに合わせてこちらも体を運動させてみれば、もしかしたら犬が棒にあたるような新しい感覚が生まれるかもしれません。

ところで今回の原稿は、インクルーシブ教育、特に視覚障害を主題にというご依頼に応じて書いたものです。美術（教育）において視覚障害が取り扱われるとき、まず「触る」ことが焦点になることが多いのはなぜでしょう。むろん、彫刻などに触れ、視覚に頼ることなく作品の魅力を探る試みはひとつの有意義な手立てですし、「平面」、あるいは「表」「裏」という概念を原則的に持たない触覚という感覚は、視覚を相対化するために障害の有無によらず有効でしょう。ただしそれは、一歩間違えば視覚障害者＝「触覚の人」という勝手な固定化を招きかねず、また、美術、音楽、体育といった、便宜的な区分にすぎない既成の枠組みをいたずらに強化することにもなりかねません。美術館で視覚に頼らないならば、言うまでもなく、歌ったり、踊ったりしていいのです。

* 毛利悠子公式サイトで動画が公開されています。
右の二次元コードよりご覧ください。

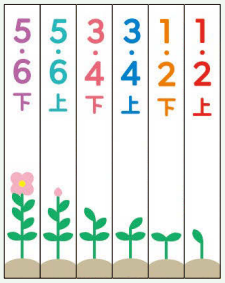
成相 肇　なりあい・はじめ
東京国立近代美術館主任研究員。
1979年生まれ。府中市美術館学芸員・東京ステーションギャラリー学芸員を経て、2021年から現職。
主な企画展に「石子順造的世界」、「ディスカバー、ディスカバー・ジャパン」、「パロディ、二重の声」など。
近著に『芸術のわるさ　コピー、パロディ、キッチュ、悪』（かたばみ書房）。

文

〈今号のひと言〉
道端に、プラスチックでできた小さなピンク色のひらがな一文字が落ちていました。何かの玩具の欠片でしょうか。たいていのゴミは気にもかけないのに、これはずいぶんまじまじと見つめてしまいました。記号というのは強いものだとあらためて思った次第です。

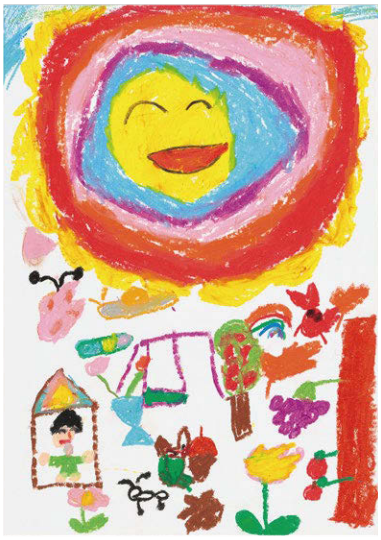
東京国立近代美術館展覧会情報
「ガウディとサグラダ・ファミリア展」
（2023年6月13日〜9月10日）

花 咲く未来を願って



教科書の背表紙は、子どもたちの成長をイメージしています。図工を通して、子どもたちの多様な個性や能力を開花させてほしいという願いも込めています。

3階から見下ろした階だん
［54×38cm／絵の具、えん筆］



げんきな おひさま
［36×25cm／パス］

おひさまをかきながら、あったらいいなと思ったものや好きなものをどんどんかき足していった一年生の作品「げんきな おひさま」。楽しそうな様子をおうちから見ている友だちもかかれています。幼稚園や保育園からの友だちでしょうか。それとも小学校で初めてできた友だちなのでしょうか。

5・6下の表紙「3階から見下ろした階だん」にも友だちが出てきます。友だちはうれしそうに手を振ってこちらを見ています。奥行きを感じさせる構図で、思わず吸い込まれそうになります。六年間共に過ごした思い出も、きっとこの作品の中につまっているのでしょう。

小学校の六年間で、子どもたちは一歩一歩確実に、そして大きく成長していきます。先生方はそんな子どもたちに寄り添いながら、人生でいつか素敵な花を咲かせることができるように、と願っておられることでしょう。

一年生が六年生に、六年生が大人になるとき、この教科書で学んだ子どもたちは、どのように成長しているのでしょうか？ 自分の好きなことを好きと言える。友だちの思いも尊重できる。図画工作で学んだことが、子どもたちの人生に勇気を与える。私たちはそう信じています。先生方や保護者の方と一緒になって、子どもたちの成長を見守りたい。それが私たちの願いです。

形 forme No.330-2023

日文教育資料［図画工作・美術］

令和5年（2023年）5月10日発行

編集・発行人 佐々木秀樹

発行所 日本文教出版株式会社
〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL：06-6692-1261

本書の無断転載・複製を禁じます。

CD33638

日本文教出版 株式会社
https://www.nichibun-g.co.jp/

大阪本社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL:06-6692-1261 FAX:06-6606-5171

東京本社 〒165-0026 東京都中野区新井1-2-16
TEL:03-3389-4611 FAX:03-3389-4618

九州支社 〒810-0022 福岡市中央区薬院3-11-14
TEL:092-531-7696 FAX:092-521-3938

東海支社 〒461-0004 名古屋市東区葵1-13-18-7F・B
TEL:052-979-7260 FAX:052-979-7261

北海道出張所 〒001-0909 札幌市北区新琴似9-12-1-1
TEL:011-764-1201 FAX:011-764-0690